

『植物工場の普及・拡大に向けた重点対策』

植物工場WGにおける提言

- ・植物工場は、農商工連携のシンボル。（先進技術の園芸農業への活用、地域の活性化）
- ・植物工場が、サイエンスに基づく農業（計画・安定生産、篤農家技術の継承）、マーケットインの農業生産（商品提案力、価格決定権の獲得）を実現。
- ・植物工場を、地域の雇用を確保し、地域活性化を担う産業として育成。

普及に向けた課題

- (1) 植物工場産農産物の販路の拡大
- (2) 生産コストの大幅な縮減
- (3) 高付加価値化と新たな需要創出
- (4) 事業環境の整備と立地促進

植物工場の普及・拡大に向けた農林水産省の支援

① 実需者との連携強化

- － 流通・加工業者とのサプライチェーンを構築し、安定供給と付加価値向上を図る取組を支援。【国産原材料供給力強化対策(21年度当初:56億円、経済危機対策:10億円)】



(左)ビタミンを強化(右)ポリフェノールを強化 LEDを用いた光制御

② コスト縮減技術の開発・実用化

- － コスト縮減技術の実用化に向けた技術の実証・展示や人材育成のための研修を行う拠点を整備。民間企業と研究者のグループによる技術の実用化を推進。【植物工場普及・拡大総合対策(経済危機対策:96億円)】
- － 人工光源を活用した植物の光応答メカニズムの解明と高度利用技術の開発。【委託プロジェクト研究(21年度当初:4億円)】

③ 医薬品等への展開による新需要の創造

- － スギ花粉症緩和米の実用化に向けた試験を行う植物工場を整備。【スギ花粉症緩和米試験研究拠点の整備(経済危機対策:16億円)】

④ 植物工場の設置支援

- － 農業者団体のほか、民間企業による農地以外への立地も対象として、リース方式等による植物工場の導入を支援。【植物工場普及・拡大総合対策(経済危機対策:96億円)】

目標：『3年間で植物工場の設置数を3倍増、生産コストを3割削減』